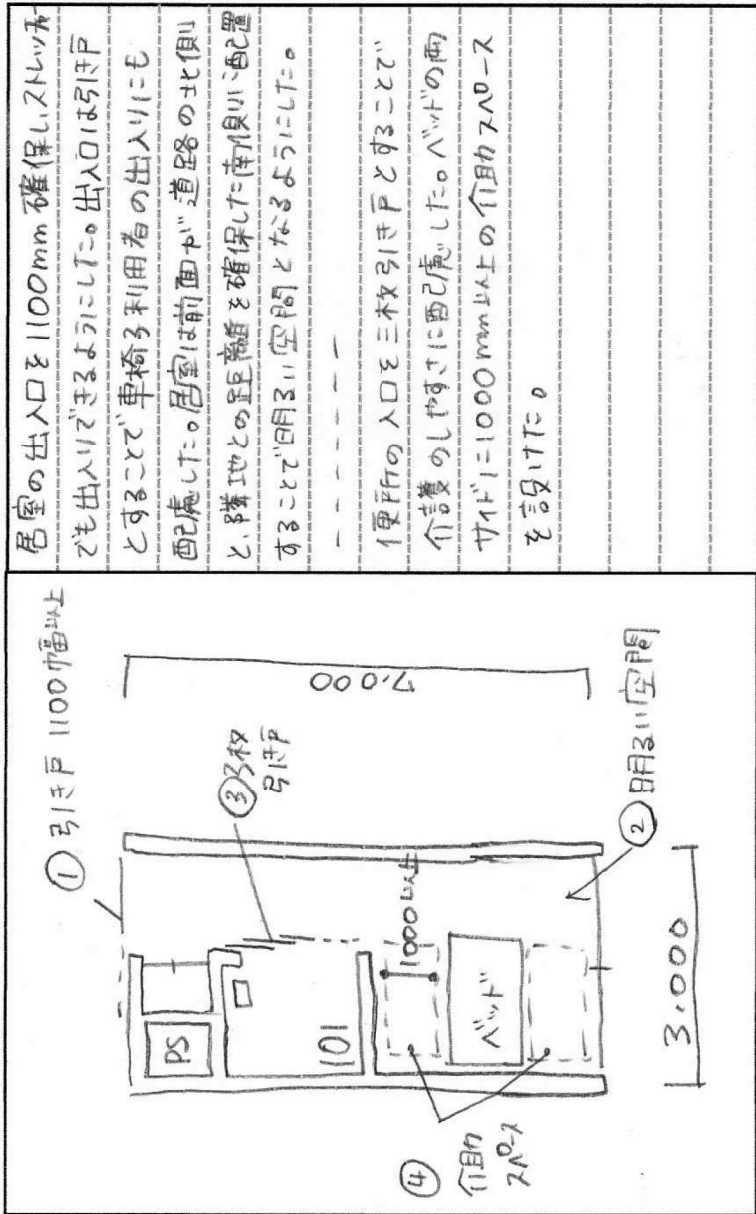


建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。

なお、要求図面では表せない部分についても記述する。(1)(3)(5)の図示は必須

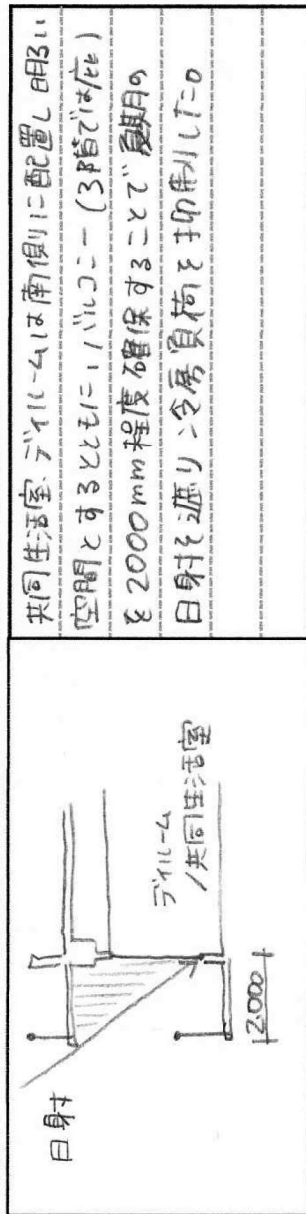
(1) 居住部門の個室の計画において「入居者の住みやすさ」及び「介護のしやすさ」について考慮したこと



(2) 居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルーム等介護に必要な諸室の配置について考慮したこと

スタッフルームはエレベーターホールから見渡せる位置とし、入居管理もしやすいように考慮して、管理用エレベーター(建業南側エレベーター)から直接アクセスできるようにすることで、利用者ゾーンを通らずとも介護に必要な物資を運搬できるようにした。

(3) 共同生活室及びダイニングについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために建築計画において工夫したこと(Low-Eガラスを仕様する工夫を除く)

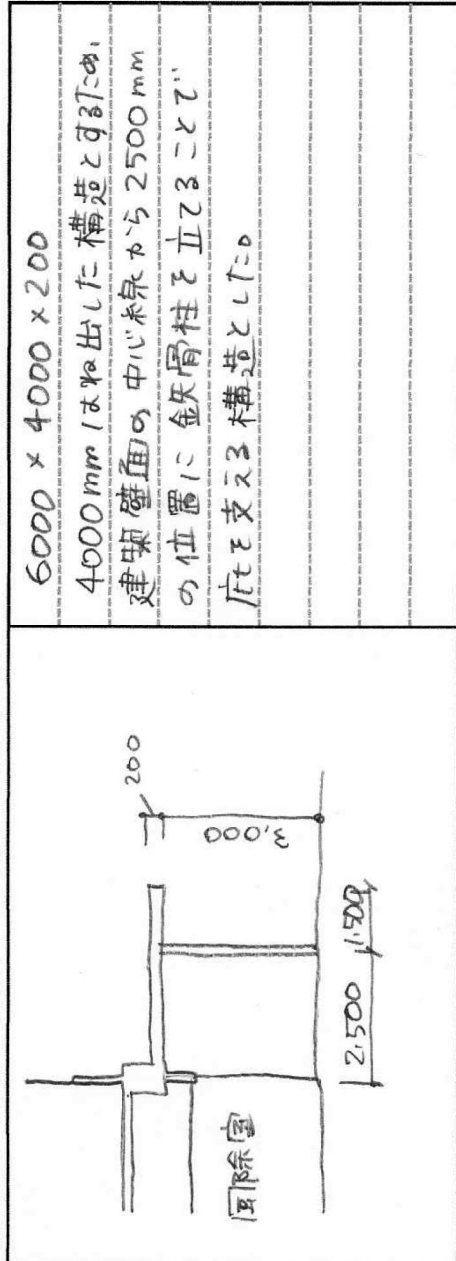


※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名をお書き添えください。

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性の応じて採用した構造種別・耐震計算ルートとそれらを採用するにあたり、耐震性を確保するために考慮したこと

ルート①・2・3 スパコンを設けるだけ等間隔とし、階高も等しくすることで地震時に各部分に力がかかり、ねじれが起きにくくなるよう配慮した。

(5) 車寄せの屋根・庇などとなる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屋根。庇などの構造計画(各種寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等)について考慮したこと



(6) 地盤条件や経済性を踏まえた、支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

支持地盤はN値=30以上の砂礫層とし、Gレ-1.5mにあることから直接基礎を採用した。埋め戻し部分については支持層に十分な入れ、深さを確保するため、東から2スパンは基礎底面をGレ-4.5mとし、経済性に考慮してそれ以外はGレ-2mとし、不同沈下を防ぐため、直接基礎の中でもバタ基礎を採用した。

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、建築計画や設備計画において考慮したこと

集約的な空気供給のため、外気処理空調を採用した。トイレなどの床や壁、まわりを付着した様の素材を選定することで、接触による感染を抑えられるようにした。汚物処理室は利用者が離れて設置することで、万一でも感染拡大を防止できるように配慮した。

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

空冷ヒートポンプマルチ型 + 外気処理空調機
居住状況・利用時期に細かく対応するため、個別制御が可能な空冷ヒートポンプ方式を採用した。換気方式としては外気処理空調機を採用することで、新鮮な空気を供給できるようにした。

令和2年 本試験再現 一級建築士設計製図試験 答案用紙II ver0.9

ID:20-

受験番号:

ハンドルネーム:

Chan